

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月22日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|--|-------|-----------|
| 事業所番号 | 鹿児島県指定 第4677900070号 | | |
| 法人名 | 有限会社 共生 | | |
| 事業所名 | グループホーム 共生 | | |
| 所在地 | 鹿児島県 肝属郡 南大隅町 佐多郡 896-2 (電話) 0994-28-4884 | | |
| 評価機関名 | NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 鹿児島市星ヶ峯4-2-6 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年4月20日 | 評価確定日 | 平成21年5月2日 |

【情報提供票より】(平成21年 3月31日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|-------------|-----------|
| 開設年月日 | 平成 16 年 4 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 19 人 | 常勤6人 非常勤13人 | 常勤換算12.5人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------------|--|--|
| 建物構造 | 木造平屋家建 造り | | |
| | 1階建ての ～ 1階部分 | | |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|--------------|----------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 24,000 円 | その他の経費(月額) | 0 円 |
| 敷 金 | 有 (円) | ○無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有 (円) ○無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり | | 800 円 |

(4) 利用者の概要(3月31日現在)

| | | | | | |
|-------|--------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 16名 | 男性 | 5名 | 女性 | 11名 |
| 要介護1 | 3名 | 要介護2 | 3名 | | |
| 要介護3 | 6名 | 要介護4 | 2名 | | |
| 要介護5 | 1名 | 要支援2 | 1名 | | |
| 年齢 | 平均 83歳 | 最低 | 73歳 | 最高 | 95歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------------------|
| 協力医療機関名 | 南大隈町立診療所・南大隈町立歯科診療所 |
|---------|---------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

| |
|--|
| <p>入居者と管理者・職員が、家族のような思いで接しており、暖かくて家族的な雰囲気がある。住みなれた地域で馴染みの職員に支えられて、地元の新鮮な魚介、野菜などが提供されている。自分の言葉でその人らしく過ごせるように支援して、地域密着型サービスを理想的に実践している。それぞれの生活状況等把握し、居室料や食費など入居者の自己負担軽減に努めている。</p> |
|--|

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 今までの理念を見直し、地域密着型サービスとしての役割を考えた理念を作り上げ、改善している。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 自己評価では管理者と主任が評価に取り組んでいる。全職員で評価してのケアの振り返りや見直しなどの取り組みは今後の課題である。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 地域的に高齢化や共働き、町担当者の曜日や時間調整など、問題がありながら、参加者を工夫しながら開催している。警察との連携など図られ、ホームへの理解などサービス向上に活かされている。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 説明文書に苦情・相談窓口について明記し、面会時など気軽に意見や要望など言える関係を築いている。意見や要望についてはミーティングなどで話し合い、運営に反映させるよう努めている。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 校区行事の小学校の運動会に参加したり、小学生のボランティアの受け入れを行っている。地域の人が魚や野菜など持ってきてくれたり、自宅のある地域の敬老会に参加したり交流に努めている。 |

2. 評価結果（詳細）

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期 待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|----------|---|--|--------------------------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 前回評価後に職員全員で話し合い、今までの理念を見直し、地域密着型サービスとしての役割を考えた事業所独自の理念を作り上げている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 各棟の見やすいところに掲示し、職員会議等で理念について話すなど、理念を共有し理念に添ったケアに取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 校区行事の小学校の運動会に参加したり、小学生が肩たたきなどのボランティアに来てくれる。地域の人が野菜や魚を持ってきてくれたり、交流することに努めている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 外部評価後の改善には取り組んでいる。自己評価は管理者と各棟の主任のみで実施している。全職員で評価に取り組むことで、ケアの振り返りや見直し、具体的な改善などへの取り組みはこれからである。 | ○ | 評価の一連の過程を通じて、質の確保・向上につなげるためには、全職員で取り組むことが望まれる。 |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 地域性や市担当者の曜日調整など参加者を工夫しながら開催している。警察との連携など図られ、ホームへの理解などサービス向上に活かされている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|--|----------------------|----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | ホームの運営や現場の実情など日頃より伝えており、意見やアドバイスをもらうなど連携を図っている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 毎月の請求書と一緒に、個別の写真や支援経過など同封したり、また家族の来所時に利用者の様子など報告している。金銭管理については通帳のコピーを送っている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族とはコミュニケーションが図られ、面会時に意見や苦情等表せるような関係づくりを行っている。意見はミーティングで話し合い運営に反映させている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 利用者と職員の馴染みの関係づくりの重要性を理解し、異動や離職を最小限に抑える努力をしている。採用後は日勤や夜勤など慣れるまで勤務体制を工夫し、ダメージを防ぐ配慮をしている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修、ホーム内の勉強会や資格取得など、職員が働きながら、技術や知識を身につけていけるよう進めている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 連絡協議会に加入し、研修等に参加している。地域の他のホームとも交流しており、相互訪問等の活動を行い、サービスの質向上に活かす取り組みをしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|--|---|----------------------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居希望があれば自宅や病院に出向いて面談し、家族に見学を勧めている。言葉など地域の方言で接しており、職員や他の入居者と馴染めるよう、雰囲気作りを工夫している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 入居者・家族と職員は昔からの知り合いが多く、それぞれの立場や状況など理解して接しており、その人らしく暮らしていけるよう支えあう関係を築いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 管理者は、職員に入居者の話をゆっくり耳を傾けて聞くことや、様子や表情から思いや意向を把握するようにしている。本人本位に検討するよう努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 面会時に家族に話を聞いたり、病院受診時には主治医の意見を聞き、カンファレンスを実施し、全職員で話し合って介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 計画の期間に応じて見直しをしている。業務日誌等も参考に、状態変化があれば随時見直しをしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 通院介助、受診支援、自宅訪問、墓参りなど希望に応じて柔軟に支援している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族の希望する主治医での受診を支援している。皮膚科や眼科など適切な受診を支援している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 家族の意向で看取りを行なった。それぞれの入居者の立場や状況を把握しており、家族の意向を尊重し、重度化や終末期の方針について主治医や他の関係者と話し合って対応している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 採用時に誓約書を取り交わし、個人情報保護法について確認している。さりげない言葉かけや対応など気づいたときに注意し合って、プライバシーの確保の徹底に努めている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床や就寝、食事時間、毎日の過ごし方など入居者のペースを大切にしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | できる方には野菜の下ごしらえや後片付けなど一緒に行い、畑の野菜や地元で取れた魚や貝など利用して楽しく準備や食事をしている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 基本的には週3回と決めているが、希望者は毎日でも入浴できる。回避傾向の方も声かけやタイミングを合わせ、支援できている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 洗濯物の取り入れやたたみ、草取りなどできる事はしてもらっている。新聞を読んだりテレビ鑑賞、歌など楽しく過ごしてもらっている。釣りや網漁などの手伝いなど気晴らしの支援をしている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | ウッドデッキに出たり、庭や畑への散歩、希望者は買い物・自宅訪問・ドライブ等、ホームに閉じこもらないよう支援している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 鍵をかけないことが普通のこととして、日中は鍵をかけないケアを実践している。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回消防署と協力し、定期的に避難訓練等を実施している。発電機やカセットコンロや缶詰等災害に備えて準備している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事や水分摂取量を記録している。刻み食やとろみ食など個別に支援している。栄養士から栄養バランスなどアドバイスを受けている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 対面キッチンでテーブルやソファが家庭的に配置され、季節の花が生けられ、生活感や季節感を取り入れ、居心地よく過ごせる工夫がある。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 衣装ダンスや鏡、和室にコタツや鳥かごなどを持ち込み、自宅と変わらない生活をしている。利用者の思いが尊重され、居心地良く過ごせる居室作りを行っている。 | | |

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。